

## 予算特別委員会における質疑の一部

### エコタウンプロジェクトについて

武内県議	エコタウンプロジェクトは、平成 24 年度から平成 27 年度まで当初予算ベースで 12 億円であるが、決算ベースでは約半分の 5 億円程度である。これでは、目標は達成されていないと思うがどうか。
環境部長	当初は街区の 830 戸全部の太陽光を乗せたいという予算を計上したが、実際にプロジェクトを進める中で、設置が進まない実態がわかってきた。
武内県議	毎年のPDCAサイクルがきちんと回っていなかったのでは。
環境部長	各年度の状況を学習して進めるべきであったが、我々がやりたいという意気込みがあった。しかし、今考えると多い予算額だったという反省はある。
武内県議	平成 28 年度予算は、再び減額補正や不要額が多く出ることはないか。
環境部長	来年度は、住民に対する補助金の予算を 3 割減と見積もっている。
武内県議	見栄えだけの金額が計上されているともとれる。今後同じようなことを繰り返さないようにしてほしい。

### 県産米「特A」プロジェクトについて

武内県議	「彩のきずな」に特Aを獲得させる取組を行うということだが、なぜ今「特A」なのか。
農林部長	これまでも良食味化に取り組んできたが、TPPなどあり産地間競争が激化しており、埼玉県でも米を高く売りたいという気持ちで「特A」取得の可能性の高い「彩のきずな」に着目した。
武内県議	本県は、平成 3 年にコシヒカリで特Aを一度取っただけで、25 年間とれていない。これまでなぜ特Aをとれなかったのか。
農林部長	他県では、「特A」を取るために戦略的なサンプル提出を行っている。埼玉県でも戦略を立てて行っていくことが重要であると考えている。
武内県議	いつまでに取るという目標はあるのか。
農林部長	目標は定めていないが、5 年後までには、県内どこでも「特A」の米が取れる技術開発をしていきたい。